

事例紹介②

将来世代の視点から描く、地域のかたち ～フューチャー・デザイン活用例～

2025.2.7（金）

岩手県矢巾町教育委員会

学校教育課長 高橋雅明

矢巾町について



YAHABA TOWN



田園風景が広がる豊かな自然

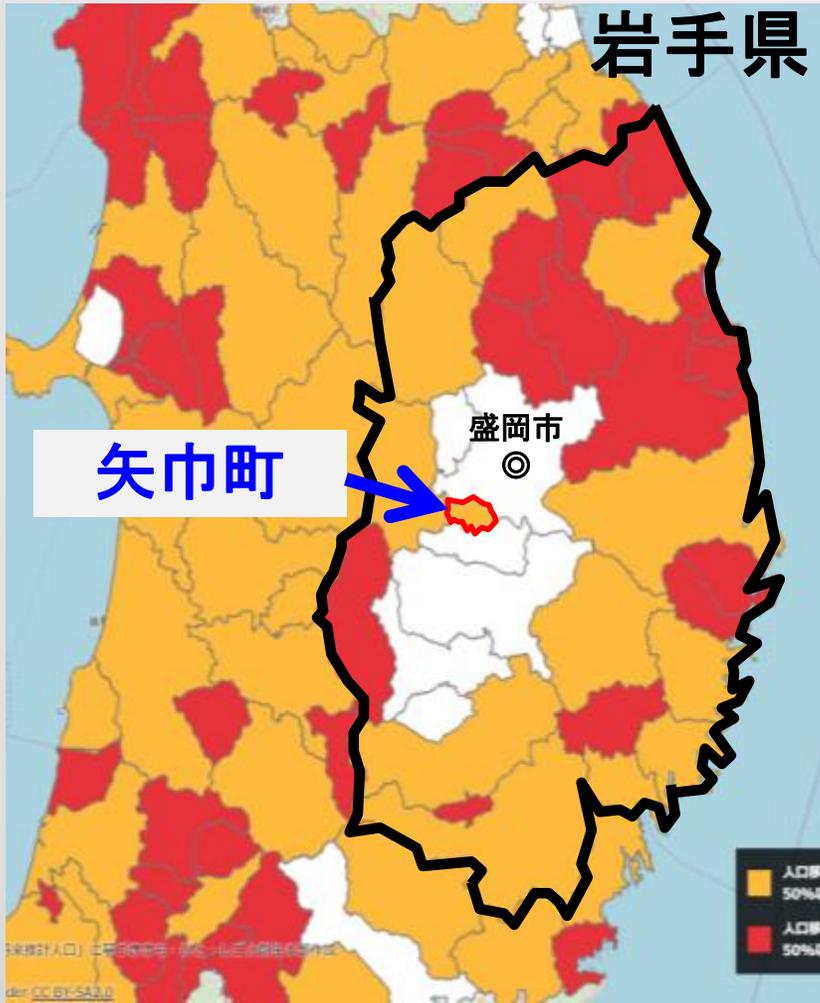


都市基盤が整備された矢幅駅周辺



岩手医科大学と附属病院が移転

矢巾町の概要



◆人口 28,056人
(令和2年国勢調査)

◆面積 67.32km²
(県内33市町村中 32位)

◆人口密度 416.8人/km²
(県内33市町村中 1位)

◆財政 115億8,960万円
(令和6年度一般会計当初予算)



矢巾町長 高橋昌造

人口増加率 県内1位 (2020) 地価上昇率 県内1位 (2021)

集住率上昇幅 全国1位 (2021)

大東建託 住み続けたい街ランキング 県内1位 (2021)

週刊ダイヤモンド 勢いのある街ランキング 県内1位 (2016)

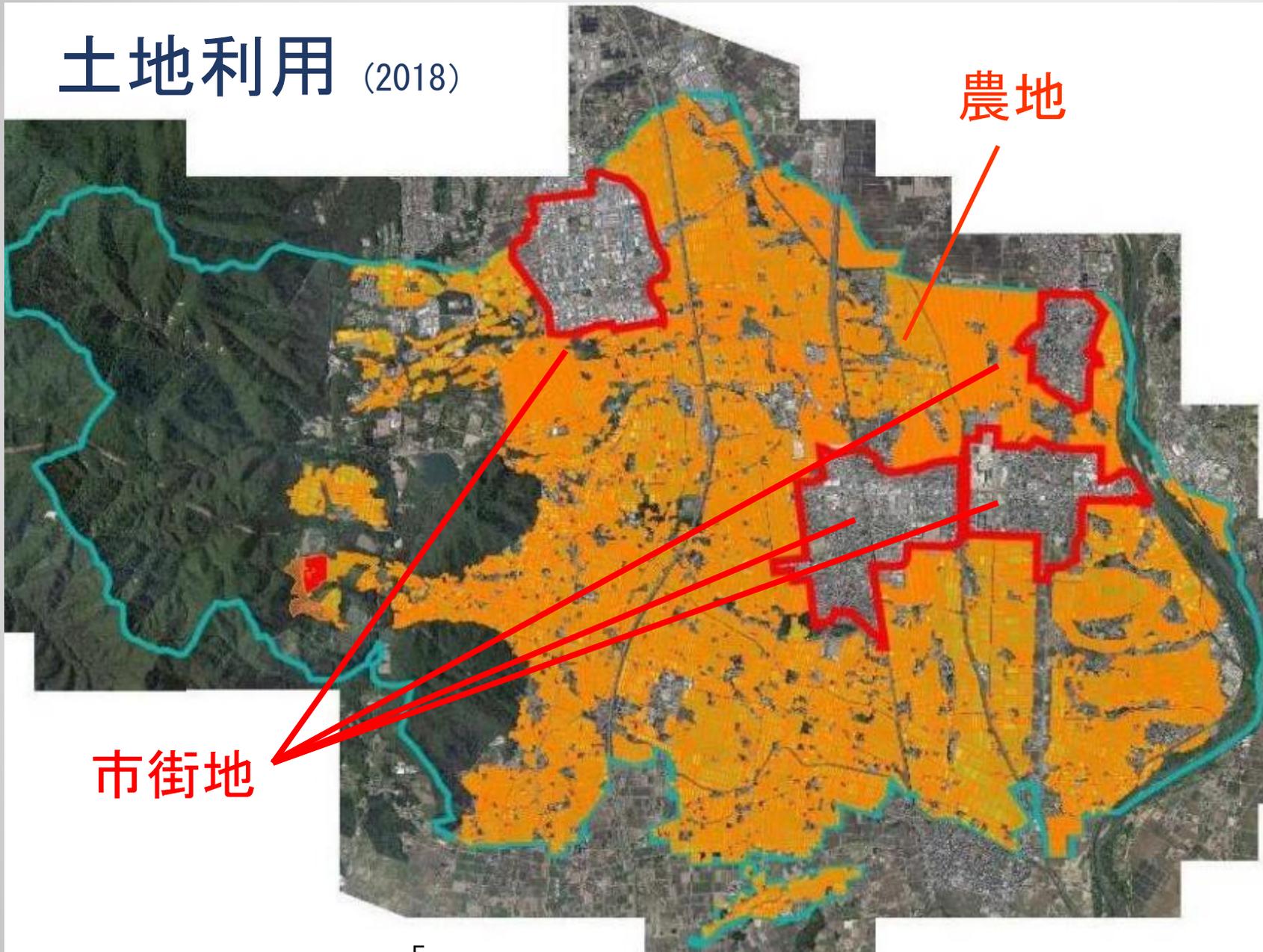
矢巾町の概要



【町の特徴】

- 交通アクセスが良い
- 都市と田園風景の調和
- コンパクトな市街地形成
- 教育・医療・福祉施設が充実
- 人口増・若者が増えている

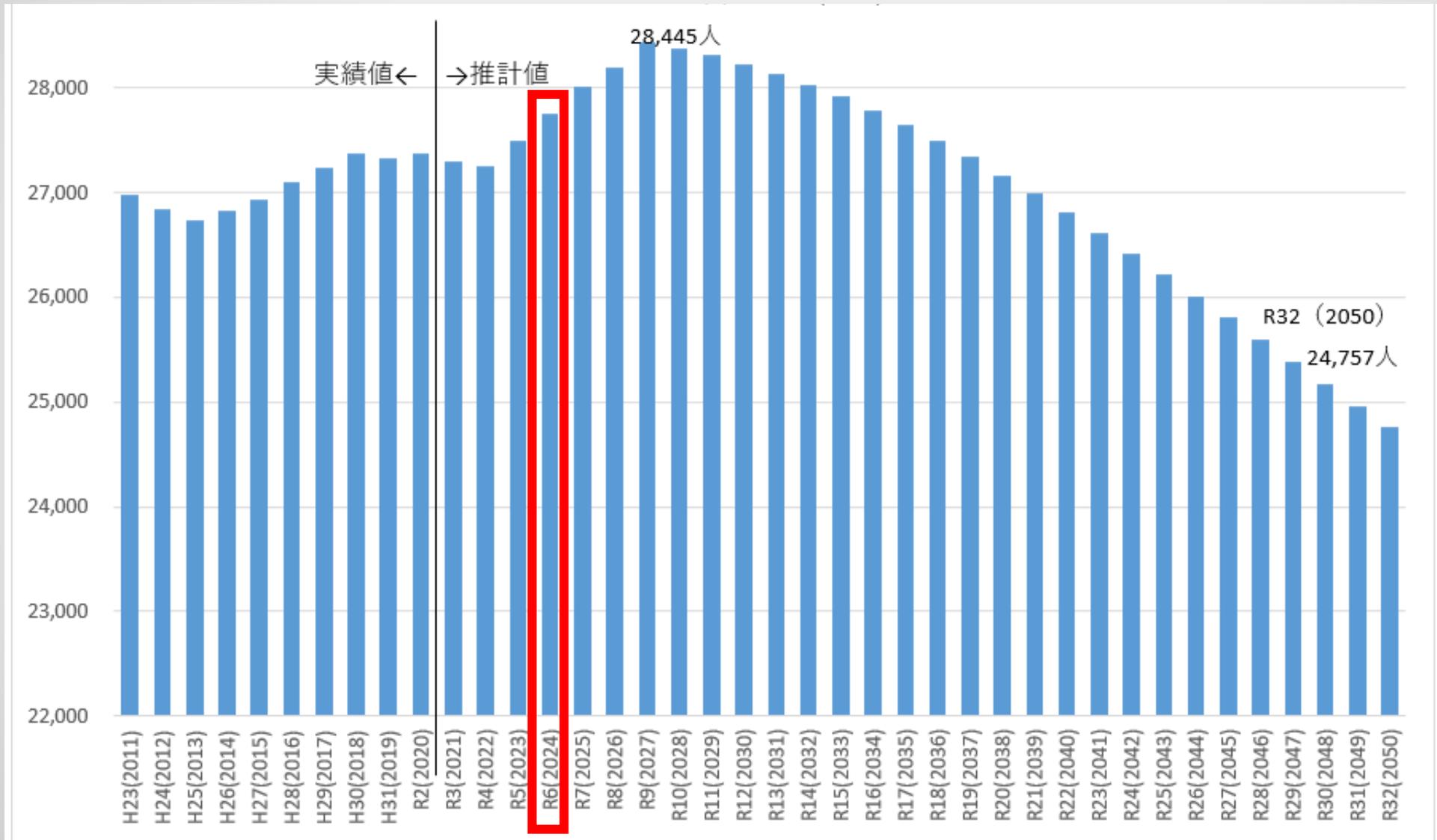
土地利用 (2018)



【町の特徴】

- ・ 交通アクセスが良い
- ・ 都市と田園風景の調和
- ・ コンパクトな市街地形成
- ・ 教育・医療・福祉施設が充実
- ・ 人口増・若者が増えている

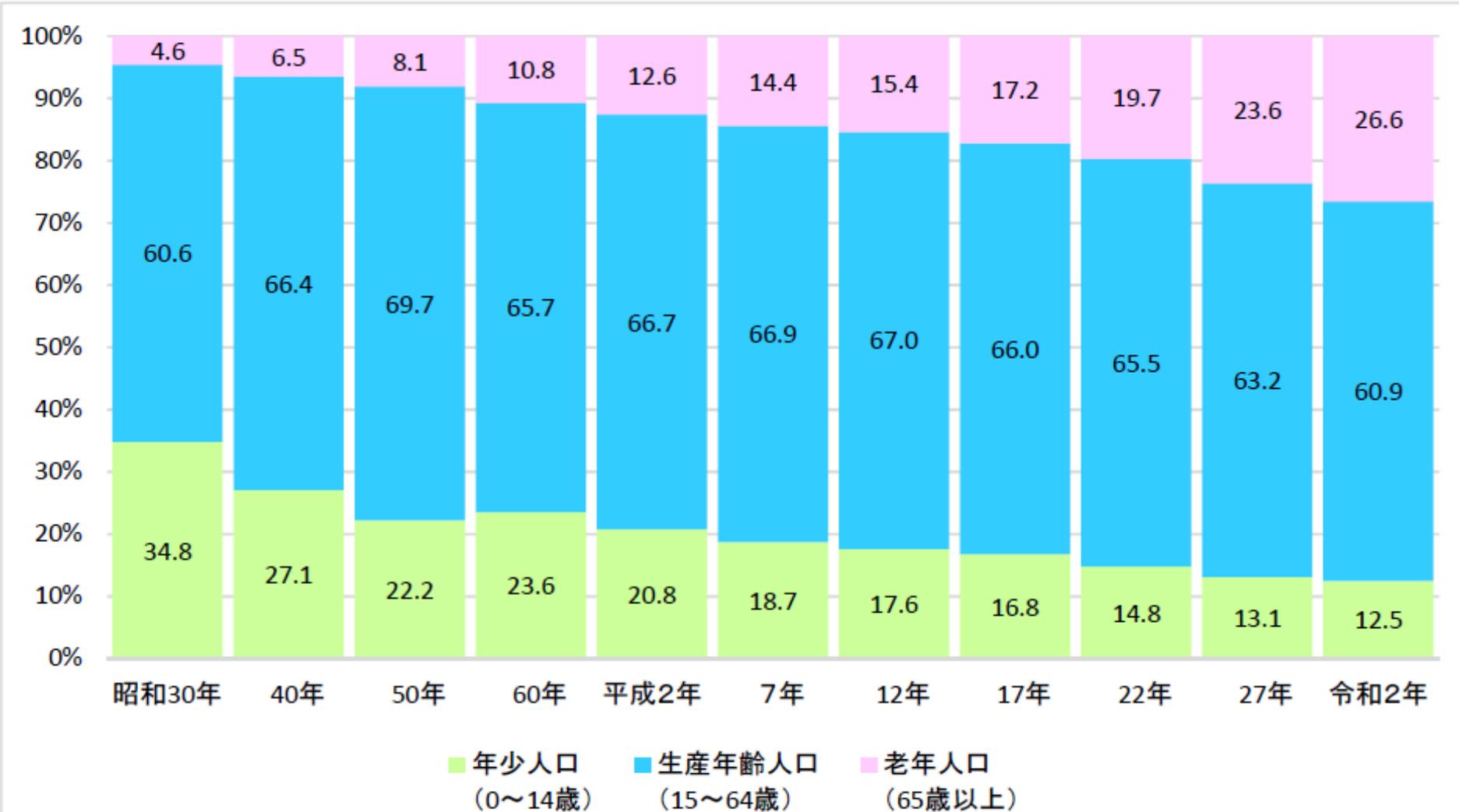
矢巾町の人口推計 (令和2年)



令和9年頃まで増加
その後減少局面に入る見込み

年齢3区分割合の推移

各年国勢調査

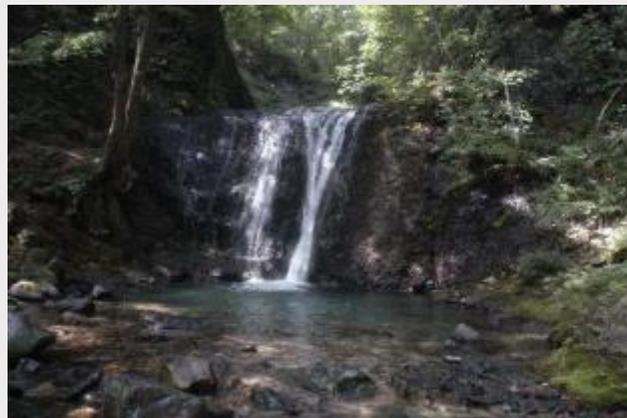


少子高齢化が進んでいる

矢巾町の観光スポット・特産品



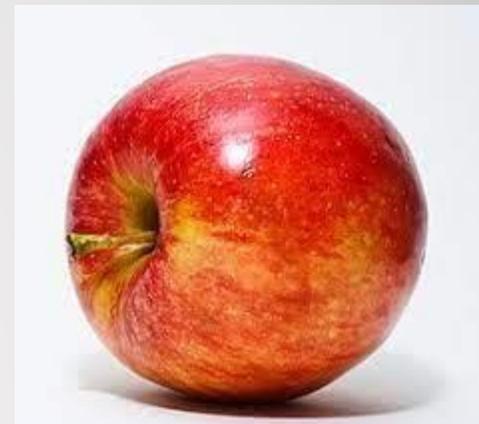
煙山ひまわりパーク



ぬさかけの滝



米（もち米）



リンゴ



矢巾温泉郷



国指定史跡徳丹城跡



しいたけ



山ぶどう など

矢巾町のイベント



奇祭「スミ付けまつり」

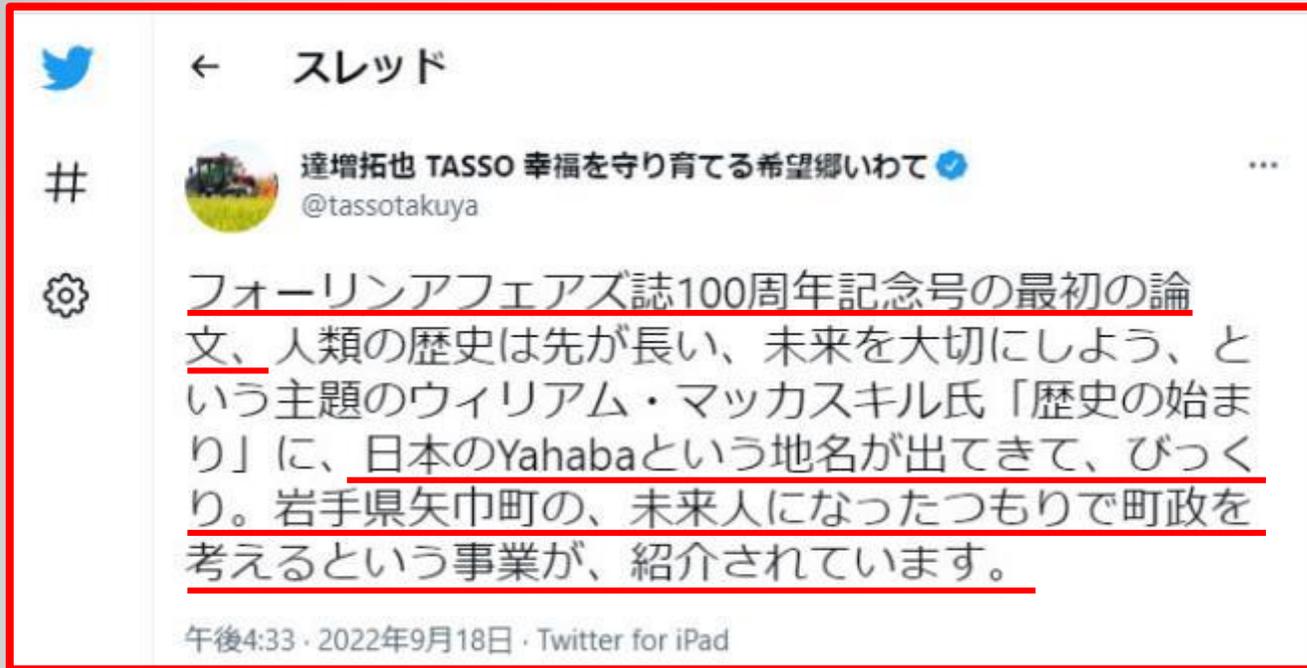


ちゃぶ台返し世界大会 など

矢巾町の取り組み

「未来人になって議論してください」
この一言で、まちが変わる!?

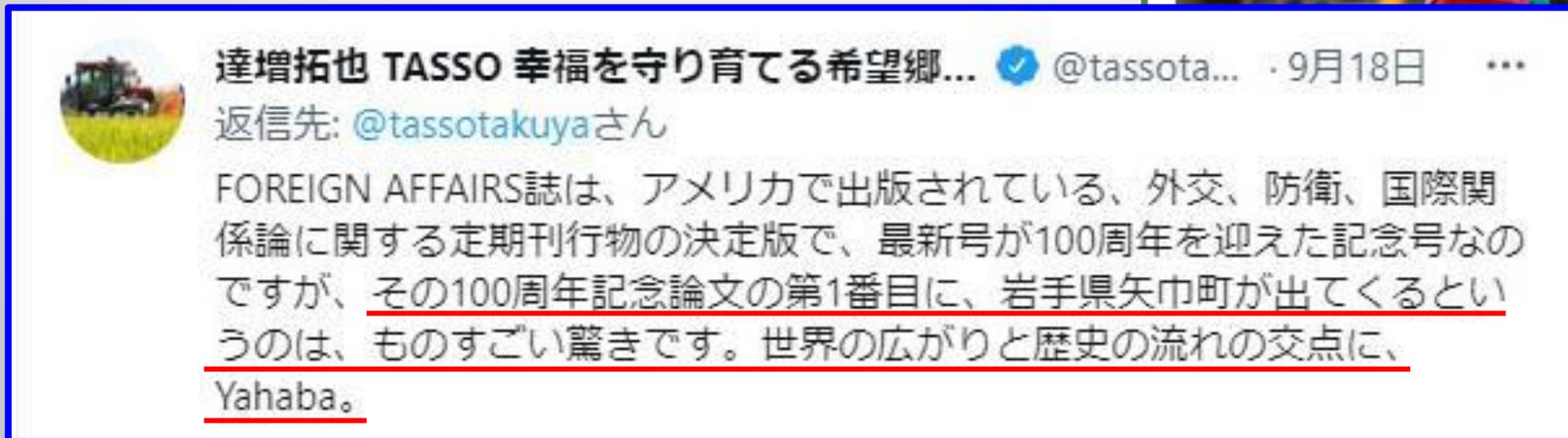
◆達増知事のツイートから (2022.9.18)



Twitter interface showing a tweet from 達増拓也 TASSO 幸福を守り育てる希望郷いわて (@tassotakuya). The tweet text is: フォーリンアフェアズ誌100周年記念号の最初の論文、人類の歴史は先が長い、未来を大切にしよう、という主題のウィリアム・マッカスキル氏「歴史の始まり」に、日本のYahabaという地名が出てきて、びっくり。岩手県矢巾町の、未来人になったつもりで町政を考えるとという事業が、紹介されています。 The tweet was posted at 午後4:33 on 2022年9月18日.



Twitter interface showing a tweet from 達増拓也 TASSO 幸福を守り育てる希望郷いわて (@tassotakuya). The tweet text is: ウィリアム・マッカスキルさんが岩手県矢巾町のフューチャーデザインを紹介する論説、ワシントンポスト紙にも載っていました。 Below the text is an image of a person holding a sign that says "SAVE OUR PLANET" at a protest. Below the image is a quote: "Focus on future generations. For our descendants, we need to create institutions".



Twitter interface showing a reply tweet from 達増拓也 TASSO 幸福を守り育てる希望郷... (@tassota...). The reply text is: FOREIGN AFFAIRS誌は、アメリカで出版されている、外交、防衛、国際関係論に関する定期刊行物の決定版で、最新号が100周年を迎えた記念号なのですが、その100周年記念論文の第1番目に、岩手県矢巾町が出てくるというのは、ものすごい驚きです。世界の広がりと歴史の流れの交点に、Yahaba。

◆ 達増知事のツイートから (2022.9.18)

2022.9

アメリカの政治・外交誌「フォーリン・アフェアーズ」100周年記念号
及び「ワシントン・ポスト」紙で矢巾町の取り組みが紹介される



例 1) 水道サポーターによるワークショップ(2012)

○ まちの水について本気で考える水道サポーターワークショップ。

まちの方々を巻き込んで、未来の水道について考える中で1番大切なことは、みんなの考え方をシェアすること。例えば、ワークショップに参加した「水道サポーター」の皆さんから、将来ずっと安心な水を使うためには水道料金を上げる必要があるという提案がありました。それは施設見学、利き水、議論などのプロセスを通して、未来のために必要だと実感したから。みんなで「未来」という目線で考えると、本当に大切なことが見えてきた1つの事例です。

■ 水道サポーターワークショップの流れ



住民参加の勉強会
フューチャー・デザイン
の手法を実践



水道料金値上げが
参加者から提言される



ワークショップの
結果をもとに、
水道料金の値上げ
(約6%) を決定

例2) まち・ひと・しごとと創生総合戦略策定(2015)

住民の意見聴取の一環として、**フューチャー・デザイン**によるワークショップを実施



(3) 未来世代からの意見 (A・Bグループ)

(2) 現在世代からの意見 (C・Dグループ)

◎2060年の町はどうなっていると思うか？

- ・少子高齢化が進み、結婚する人も減る。
- ・100歳以上が増え、介護の担い手が不足。
- ・医大周辺は発展するが、他の地域は衰退。
- ・農業は衰退の一途をたどっている。
- ・色々な変化のスピードが速く激変している。
- ・福祉の負担が増え、若い世代の負担も増大。
- ・人口が増え、笑顔があふれている。
- ・町内どこでも車なしで暮らせるようになる。
- ・医療の充実。病院だけではなく在宅も。
- ・自殺者はゼロになっているだろう。
- ・空き農地を活用した新しい事業が生まれる。
- ・色々な面で充実していくだろう。

◎2060年に向けて行うべきこと

- ・子どもの医療費・保育料を無料にする。
- ・子どもが自由に遊べる場所を地域に増やす。
- ・子どもの学ぶ環境の改善が必要だ。
- ・子育て経験者に頼れる環境や施設があるとよい。
- ・結婚する意欲を喚起。出産奨励金もよい。
- ・結婚しなくても子どもを産み育てられる環境や制度も必要だ。
- ・町内会と子ども会の連携が大事である。
- ・若者を増やすため、企業誘致が必要。
- ・若い人の定住のための施策が必要。
- ・どんどん農地をつぶして良いのだろうか。
- ・矢巾町独自の「何か」がほしい。

現在

VS

未来

◎2060年の町はどうなっていると思うか？

- ・田園風景や自然が豊かに残っている。
- ・矢巾は自慢できるまちになっている。
- ・役場が会社経営になっている。
- ・農業のロボット化が進む。
- ・農業のまちは変わらず、医大のご飯は全て矢巾町産で賄われている。
- ・産直が一つになり大規模化し、町外へ進出。
- ・交通手段が変化し、山へもすぐ移動できる。
- ・ゴミ問題が解決しクリーンな街になる。
- ・野菜の栽培や加工の工場ができ、雇用増加。
- ・往診が増え自宅での看取りが80%になる。
- ・町民が医大で色々な知識を得られるようになる。
- ・自治会が色々な意味で強くなる。
- ・除雪問題が解決し、融雪設備もできている。
- ・エネルギーは全て町内で賄われている。
- ・農地と市街地が調和した矢巾町の良さが全国に知られている。
- ・ちゃぶ台の一大生産地になっている。
- ・投票率が上がり、多くの人が町政に興味を持っている。
- ・車がなくても暮らしていける。
- ・昔ながらの矢巾町の良さが残っている。

◎2060年に向けて行うべきこと

- ・近代化に乗っからない。
- ・休耕地対策をしっかりとる。
- ・地域の特色を活かす。
- ・農地の保全を優先したまちづくり。
- ・特産品や特徴のあるまちづくり。
- ・開発を進める地区と昔ながらの風景を残す地区をはっきり区別したまちづくりを進める。
- ・人と人の繋がりを意識して残すよう努める。
- ・子どもたちが集まって遊べる場所づくり。
- ・煙山ダムを観光資源にする(カヌー、釣り等)
- ・煙山ダム周辺をハイキングコースにする。
- ・町の特産品開発、ブランド化を進める。
- ・ボランティアに参加しやすい仕組みづくり。
- ・子どもの貧困に光をあてる税制。
- ・優秀な子を町がフォローする。
- ・自転車や車椅子、ベビーカーが通りやすいように道路や通路の段差の解消。
- ・町内で農業景観づくり表彰など、自治会や地区の励みになる仕組みづくり。
- ・まちの景観の統一(ガーデニング奨励、花いっぱい運動への表彰など)
- ・暮らしやすさを大事にしたまちづくり。

未来からの視点（フォーリン・アフェアーズ・レポート9月号巻頭論文から）

歴史の始まりー壊滅的リスクの時代を生き抜くには（抜粋）

ウィリアム・マッカスキル オックスフォード大学准教授（哲学）

この1世紀におけるもっとも厄介な出来事は、人類が自らを滅亡させる力をもつようになったことだ。気候変動から核戦争、人為的に操作された病原体によるパンデミック、制御不能な人工知能(AI)、まだ登場していない破壊的なテクノロジーにいたるまで、人類を破滅へと向かわせかねない危険はいまや数多く存在する。つまり、現代に生きるわれわれは、自分たちや子どもたちの命だけでなく、これから生まれてくるすべての人の存在そのものを左右する無謀な賭けをしていることになる。賢明に判断して行動すれば、来るべき世紀は、「未来に向けてわれわれがいかなる責務を負っているか」の認識によって形作られ、われわれの孫の孫たちは感謝と誇りをもって私たちの行動を振り返ることになるだろう。だが私たちが判断を間違えれば、彼らが生まれてくることはないかもしれない。

…未来に向けた人類の潜在的生存のスケールを理解することは、計り知れない数字を操るという無為な行為ではない。それは、何が問われているかを理解する上で不可欠だ。実際、今日のわれわれの行動が、何兆人も人類の子孫の生き方に影響を与えるかもしれない。彼らが貧困や豊かさ、戦争や平和、奴隷制や自由に直面するかどうかは、現在の私たちの行動に大きく左右される。

そうした視点の転換が重大な変化をもたらすことは、日本の（岩手県の）小さな町、**矢巾町**で行われた印象的な実験からも明らかだろう。町の問題について話し合う前に、集会の参加者の半分に法被を着せ、「自分は（2050年の）未来から来た」とイメージさせ、「自分たちの孫の世代」の利益を代弁している」という設定にした。研究者たちは、この実験の結果、考え方や優先順位について集団間で大きな立場の違いが生じることに気づいた。未来の世代を心配する姿勢が支持を集め、合意がまとまった措置の半分以上は「孫の世代」からの提案だった。

つまり、長期的な視野で考えれば、社会はまだまだ多くのことを達成できる。500年前には、所得が数世代ごとに倍増し、ほとんどの人が孫の成長をみるまで長生きし、世界の主要国が自由な選挙で指導者が選ばれる世俗的な社会になるとは想像さえできなかっただろう。（逆に言えば）現状では、人々に永続的と思われる国家という形態も今後数世紀はもたないのかもしれない。世界のさまざまな社会組織の形態は、どれも完全に確立された形で歴史に登場したわけではない。数日、数ヶ月、数年という短期的な視点は、根本的な長期的変化の可能性をみえなくしてしまう。…

歴史の始まり——壊滅的リスクの時代を生き抜くには（抜粋）

ウィリアム・マッカスキル オックスフォード大学准教授（哲学）

「...今日のわれわれの行動が、何兆人もの人類の子孫の生き方に影響を与えるかもしれない。彼らが貧困や豊かさ、戦争や平和、奴隷制や自由に直面するかどうかは、現在の私たちの行動に大きく左右される。

そうした視点の転換が重大な変化をもたらすことは、日本の（岩手県の）小さな町、矢巾町で行われた印象的な実験からも明らかだろう。町の問題について話し合う前に、集会の参加者の半分に法被を着せ、「自分は（2050年の）未来から来た」とイメージさせ、「自分たちの孫の世代」の利益を代弁している」という設定にした。研究者たちは、この実験の結果、考え方や優先順位について集団間で大きな立場の違いが生じることに気づいた。未来の世代を心配する姿勢が支持を集め、合意がまとまった措置の半分以上は「孫の世代」からの提案だった。

つまり、長期的な視野で考えれば、社会はまだまだ多くのことを達成できる。...

まちづくりの様々な場面で 「フューチャー・デザイン」を活用



フューチャー・デザイン (FD) とは？

フューチャーデザインとは

人々が将来可能性を発揮できる社会の仕組みのデザインと、その実践

※将来可能性：「現在世代が自分の利益を差し置いても、将来世代の利益を優先するという可能性」

(財務省財政制度等審議会資料より抜粋)

2012年 西條辰義先生 (現・京都先端科学大学特任教授) により考案

- フューチャーデザインとは、将来世代は現在の政策決定に意思を反映できないという問題意識に立ち、現世代が将来可能性（将来世代の利益のための思考・行動）を発揮できる社会の仕組みをデザインすること。
- その有力な手法の一つが「仮想将来世代」という役割の設定であり、仮想将来世代を含むグループは持続可能性の高い選択をする傾向が強まることが報告されている。

フューチャーデザインとは

人々が将来可能性を発揮できる社会の仕組みのデザインと、その実践

※将来可能性：「現在世代が自分の利益を差し置いても、将来世代の利益を優先するという可能性」

手法

現在世代と仮想将来世代が交渉や合意形成を行い、世代間利害対立の解消や利害調整を進めることで、将来世代の利益も踏まえた意思決定を行う。



- 仮想将来世代になるための未来予測や、将来から現在を振り返る視点を持つワークが効果的
- 将来世代になりきり、いかなる状況に置かれているか、その解決のために現在世代に何が必要か、などを議論する
- 仮想将来世代グループと現代世代グループに分かれて議論することも有効

行政での活用事例

- 岩手県矢巾町では老朽水道施設の更新にあたり、水道料金の値上げが必要な状況であったが、当初、住民は水道料金の値下げを主張する一方で水道の安全性や美味しさも要求し、非協力行動を選択。
- 住民参加によるビジョン策定の仕組みの中で、水道事業の在り方を判断するに足りる情報の提供、行政側と住民側の双方向コミュニケーションを図った結果、参加者のニーズの優先順位は「安全性」と「老朽管更新」になり、値下げという私的利益ではなく公共の利益が選択された。
- 「2060年の矢巾町にタイムスリップした」という設定の仮想将来世代グループは、今後の老朽管の更新のために水道料金を値上げすべきだと住民自ら提案し、矢巾町では実際に水道料金の値上げを実施することになった。

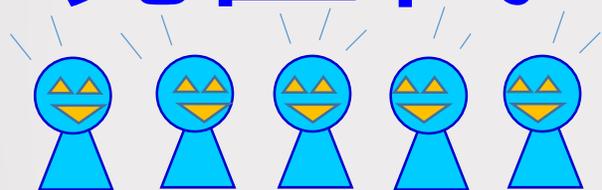
効果

- 仮想将来世代を含むグループでは、持続可能性の高い選択をする傾向が強まることが報告されている。また、現代世代は、現状の課題や満たされていないニーズから議論が展開されるが、仮想将来世代は、将来の社会状況を予想し、長所伸長型・バックカスティング型の思考も見られる。
- ミクロのレベルで具体例を交えてのPDCAサイクルの実施（漸進的改革）と、マクロのレベルで将来の視点を交えてのフューチャーデザイン（バックカスティング的考察）を組み合わせることでバランスの取れた将来像を得ることができるのではないかと。また、各層にアクティブラーニングとして参加してもらうことで、財政について当事者としての関心が高まるのではないかと。

現在

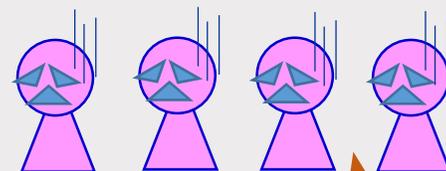
将来

現世代



どちらも大事
なのに…

将来世代



これまでもずっと将来の事は
十分考えてきたはずなのに…
なぜこうなってしまった？



将来
失敗

なぜ将来失敗を繰り返してしまうのか？

それは…**ヒトの特性**のせいでは？

近視性・**楽観性**・**相対性**

〔目の前のことを
優先しがち〕

〔何とかなるさと
思ってしまう〕

〔緩やかな変化は
気づきにくい〕

これを克服し、将来失敗を回避する
意思決定・合意形成の仕組み



フューチャーデザイン

フューチャーデザインの考え方

もしも未来人が
目の前に現れたら...



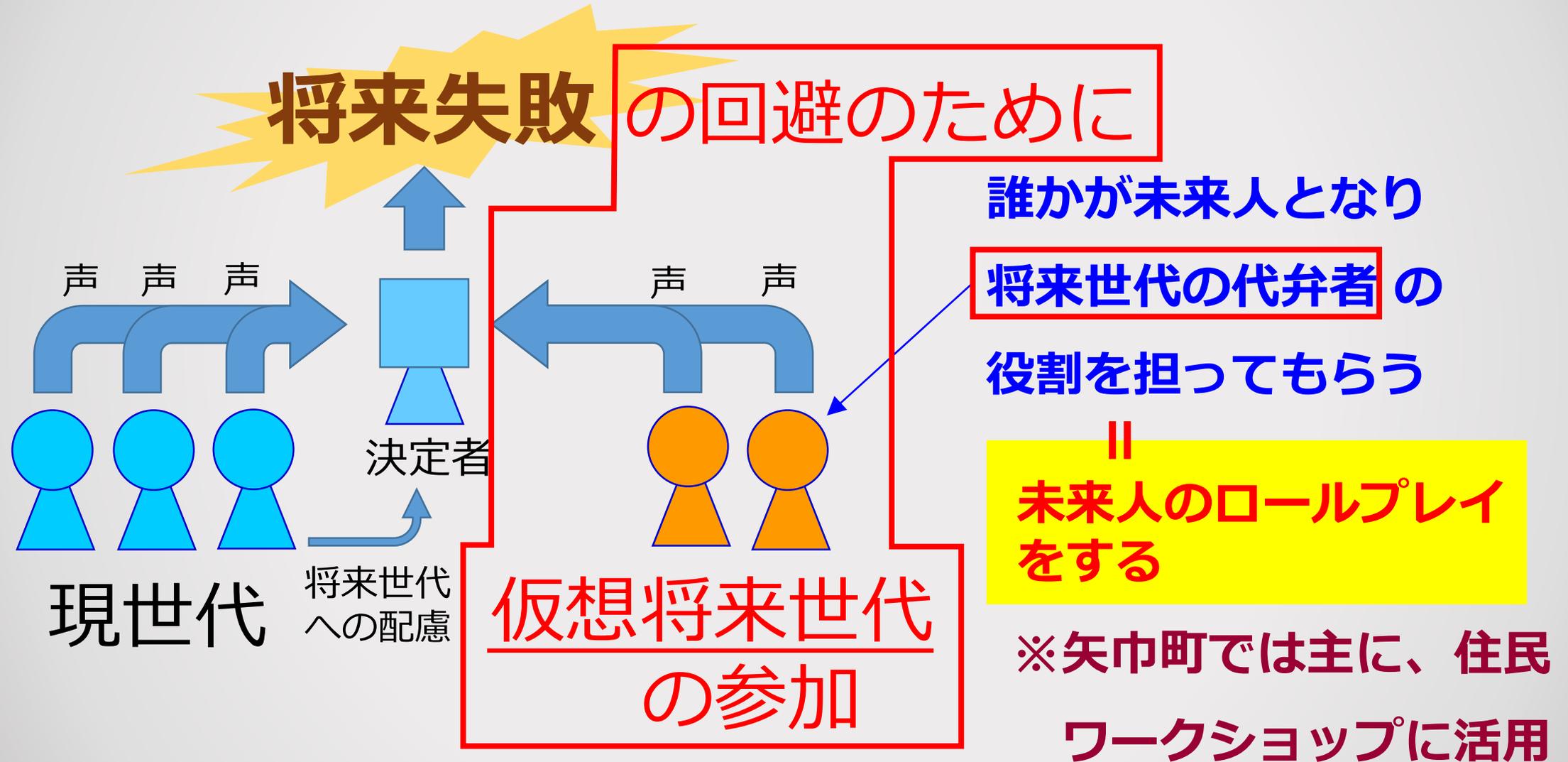
将来失敗が
避けられるかも！

アメリカ
先住民族
(イロコイ族)
の知恵

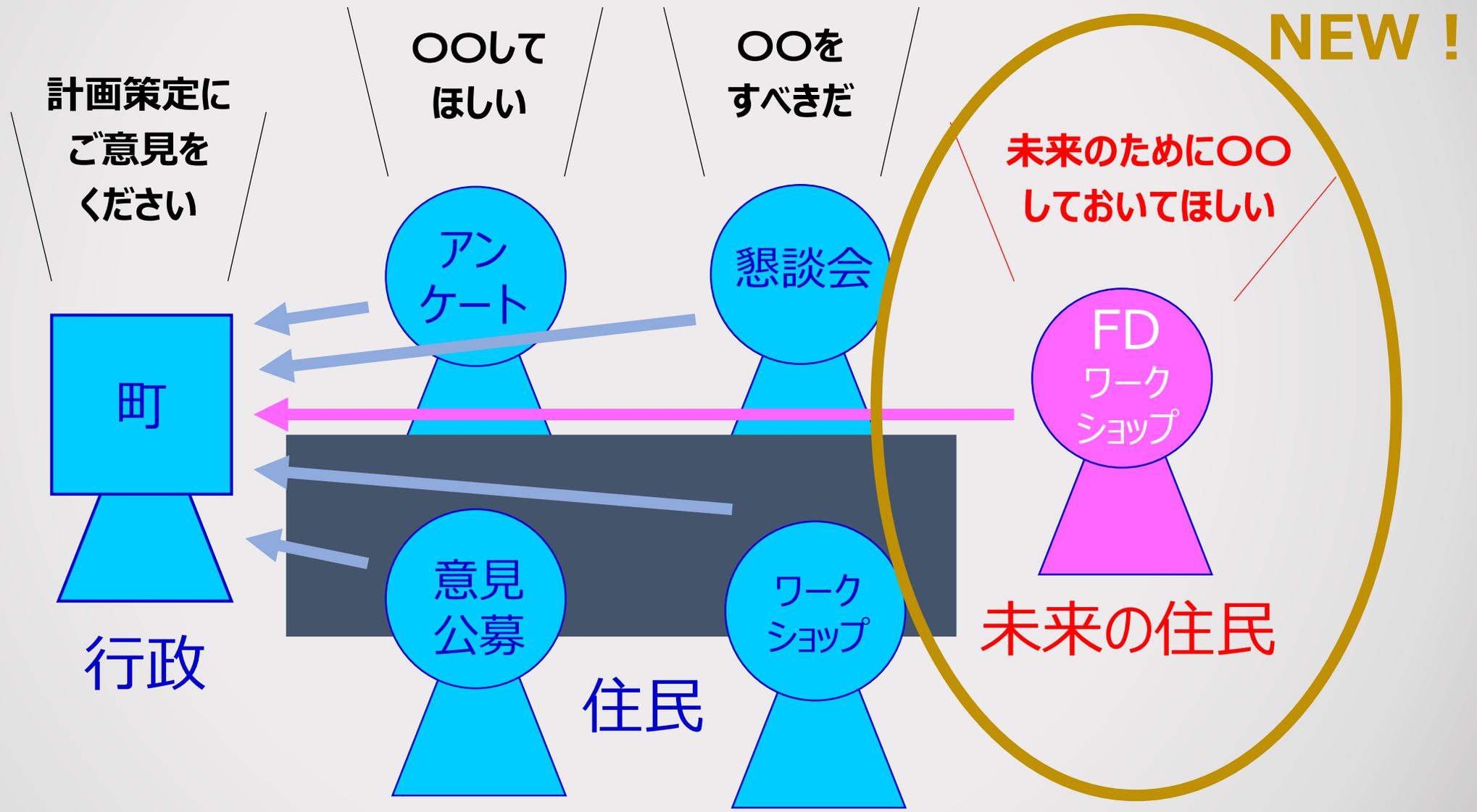


重要な決断は
7世代後の人々に
なり切って考えよ！

フューチャーデザインの考え方



例) 計画策定の場合は… (イメージ)



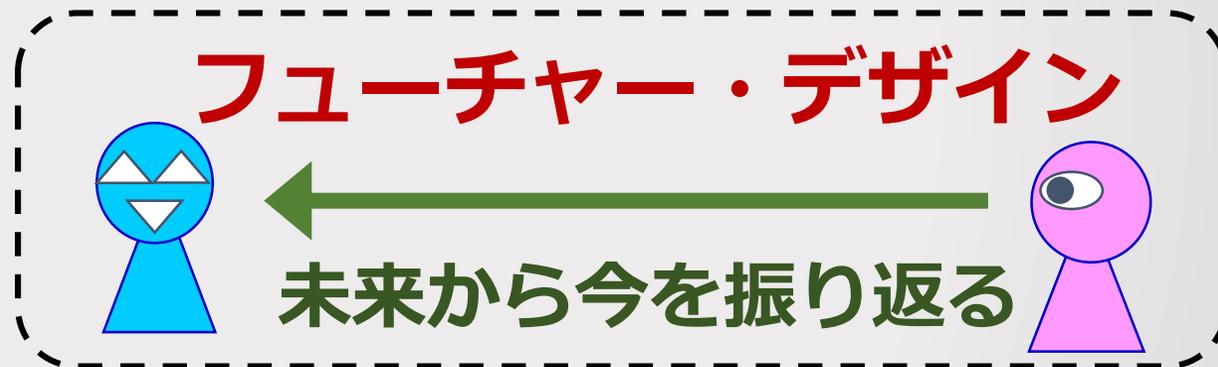
未来人として考えることは、誰でもできる！



タイムスリップ！ やることは
変わらない

過去を振り返ることは
誰でもできる

※過去の人から見れば、
今の私たちは「未来人」



過去

今

未来

FDによる住民ワークショップ（課題例）

課題

あなたはタイムマシーンに乗って、
2060年ごろの矢巾町に、今の年齢のまま
タイムスリップしました。



- ① **未来の**矢巾町のくらしはどうなっていますか？
- ② **未来から、2019年の**矢巾町で総合計画を作っている人たちにお願いをしたら、何をお願いしますか？

未来人ロールプレイのコツ

形から+心から「未来の自分」になり切る

①未来に飛ぶ「アイテム」を使う

形

②未来から見て、過去のことは
「過去形・断定形」で話す

形

③わからない部分は
「自由にイメージ」してよい

心

未来人ロールプレイのコツ (1/3)

見た目を変えて「なり切る」

① 未来に飛ぶ「アイテム」を使う 【視覚】

ひみつの道具
未来人ハッピ

着るだけで
未来の世界に
タイムスリップ！

ただし...
それ以前の出来事は**過去形**で
話さなければならなくなる！



使用前



使用后



- ・ 非日常世界の気分を盛り上げる
- ・ お互いに未来人を認識する目印

未来人ロールプレイのコツ (2/3)

話し方を変えて「なり切る」

②未来から見て、過去のことは
「**過去形・断定形**」で話す【時制】

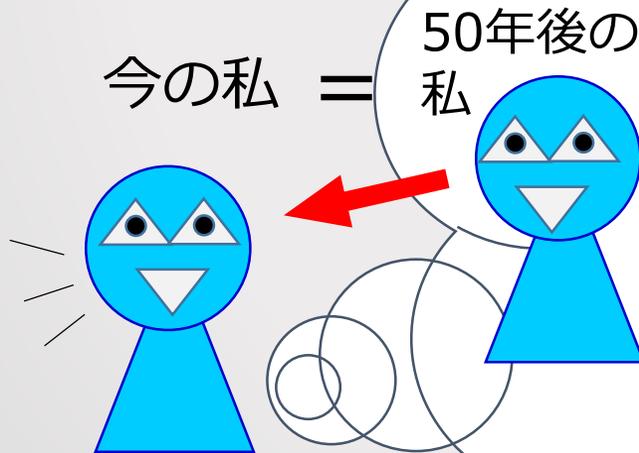


未来人ロールプレイのコツ (3/3)

思考を変えて「なり切る」

③わからない部分は **【想像力】**
「自由にイメージ」 してよい

Q)50年後の未来に
タイムスリップして
考えてください



わかっている
情報

- ・ 50年後に
タイムスリップした
- ・ 年齢はそのまま

わからない
情報

- ・ ~~車が空を飛んでいるかも~~
- ・ ~~核戦争が起きているかも~~

~~日本が世界一位の経済
大国になっているかも~~

なり切って想像

「自分だったら
こう考えるだろう」

自由に
想像

未来は誰にも
分からない
否定できない

フューチャー・デザインの 活用事例

例3) 総合計画策定のためのFDワークショップ

矢巾町第7次後期総合計画（後期基本計画）の策定の参考のため、フューチャー・デザインの手法を活用し、町のあるべき姿とまちづくりの方向性について、意見を出していただく。



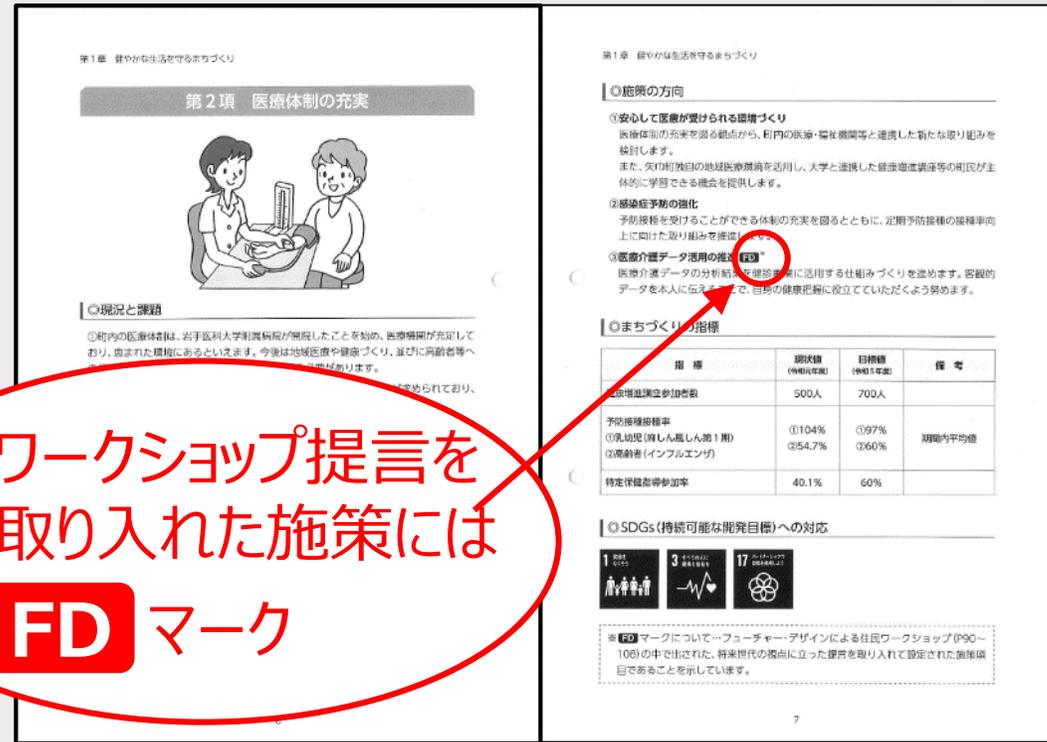
【開催期日】 2019年（令和元年）
6月1日（土）～8月17日（土）
＜全6回＞

【参加者】 25人
20～70歳代
男性18、女性7



【結果】

ワークショップ全110件の提言のうち、事業レベルの提言である44件を除く66件中、55件が採用され計画に反映 **(採用率83.3%)**



※ワークショップ提言を取り入れた施策には **FD** マーク

→総合計画を推進することで、未来に配慮した施策を全方位展開

例2) まち・ひと・しごとと創生総合戦略策定(2015)

住民の意見聴取の一環として、FDワークショップを実施



(3) 未来世代からの意見 (A・Bグループ)

(2) 現在世代からの意見 (C・Dグループ)

◎2060年の町はどうなっていると思うか？

- ・少子高齢化が進み、結婚する人も減る。
- ・100歳以上が増え、介護の担い手が不足。
- ・医大周辺は発展するが、他の地域は衰退。
- ・農業は衰退の一途をたどっている。
- ・色々な変化のスピードが速く激変している。
- ・福祉の負担が増え、若い世代の負担も増大。
- ・人口が増え、笑顔があふれている。
- ・町内どこでも車なしで暮らせるようになる。
- ・医療の充実。病院だけではなく在宅も。
- ・自殺者はゼロになっているだろう。
- ・空き農地を活用した新しい事業が生まれる。
- ・色々な面で充実していくだろう。

◎2060年に向けて行うべきこと

- ・子どもの医療費・保育料を無料にする。
- ・子どもが自由に遊べる場所を地域に増やす。
- ・子どもの学ぶ環境の改善が必要だ。
- ・子育て経験者に頼れる環境や施設があるとよい。
- ・結婚する意欲を喚起。出産奨励金もよい。
- ・結婚しなくても子どもを産み育てられる環境や制度も必要だ。
- ・町内会と子ども会の連携が大事である。
- ・若者を増やすため、企業誘致が必要。
- ・若い人の定住のための施策が必要。
- ・どんどん農地をつぶして良いのだろうか。
- ・矢巾町独自の「何か」がほしい。

現在

VS

未来

◎2060年の町はどうなっていると思うか？

- ・田園風景や自然が豊かに残っている。
- ・矢巾は自慢できるまちになっている。
- ・役場が会社経営になっている。
- ・農業のロボット化が進む。
- ・農業のまちは変わらず、医大のご飯は全て矢巾町産で賄われている。
- ・産直が一つになり大規模化し、町外へ進出。
- ・交通手段が変化し、山へもすぐ移動できる。
- ・ゴミ問題が解決しクリーンな街になる。
- ・野菜の栽培や加工の工場ができ、雇用増加。
- ・往診が増え自宅での看取りが80%になる。
- ・町民が医大で色々な知識を得られるようになる。
- ・自治会が色々な意味で強くなる。
- ・除雪問題が解決し、融雪設備もできている。
- ・エネルギーは全て町内で賄われている。
- ・農地と市街地が調和した矢巾町の良さが全国に知られている。
- ・ちゃぶ台の一大生産地になっている。
- ・投票率が上がり、多くの人が町政に興味を持っている。
- ・車がなくても暮らしていける。
- ・昔ながらの矢巾町の良さが残っている。

◎2060年に向けて行うべきこと

- ・近代化に乗っからない。
- ・休耕地対策をしっかりとる。
- ・地域の特色を活かす。
- ・農地の保全を優先したまちづくり。
- ・特産品や特徴のあるまちづくり。
- ・開発を進める地区と昔ながらの風景を残す地区をはっきり区別したまちづくりを進める。
- ・人と人の繋がりを意識して残すよう努める。
- ・子どもたちが集まって遊べる場所づくり。
- ・煙山ダムを観光資源にする(カヌー、釣り等)
- ・煙山ダム周辺をハイキングコースにする。
- ・町の特産品開発、ブランド化を進める。
- ・ボランティアに参加しやすい仕組みづくり。
- ・子どもの貧困に光をあてる税制。
- ・優秀な子を町がフォローする。
- ・自転車や車椅子、ベビーカーが通りやすいように道路や通路の段差の解消。
- ・町内で農業景観づくり表彰など、自治会や地区の励みになる仕組みづくり。
- ・まちの景観の統一(ガーデニング奨励、花いっぱい運動への表彰など)
- ・暮らしやすさを大事にしたまちづくり。

(2) 現在世代からの意見 (C・Dグループ)

◎2060年の町はどうなっていると思うか？

- ・ 少子高齢化が進み、結婚する人も減る。
- ・ 100歳以上が増え、介護の担い手が不足。
- ・ 医大周辺は発展するが、他の地域は衰退。
- ・ 農業は衰退の一途をたどっている。
- ・ 色々な変化のスピードが速く激変している。
- ・ 福祉の負担が増え、若い世代の負担も増大。
- ・ 人口が増え、笑顔があふれている。
- ・ 町内どこでも車なしで暮らせるようになる。
- ・ 医療の充実。病院だけではなく在宅も。
- ・ 自殺者はゼロになっているだろう。
- ・ 空き農地を活用した新しい事業が生まれる。
- ・ 色々な面で充実していくだろう。

◎2060年に向けて行うべきこと

- ・ 子どもの医療費・保育料を無料
- ・ 子どもが自由に遊べる場所を地
- ・ 子どもの学ぶ環境の改善が必要だ。
- ・ 子育て経験者に頼れる環境や施設があるとよい。
- ・ 結婚する意欲を喚起。出産奨励金もよい。
- ・ 結婚しなくても子どもを産み育てられる環境や制度も必要だ。
- ・ 町内会と子ども会の連携が大事である。
- ・ 若者を増やすため、企業誘致が必要。
- ・ 若い人の定住のための施策が必要。
- ・ どんどん農地をつぶして良いのだろうか。
- ・ 矢巾町独自の「何か」がほしい。

現在世代
今の延長で
未来を推測
目前課題解決

(3) 未来世代からの意見 (A・Bグループ)

◎2060年の町はどうなっていると思うか？

- ・ 田園風景や自然が豊かに残っている。
- ・ 矢巾は自慢できるまちになっている。
- ・ 役場が会社経営になっている。
- ・ 農業のロボット化が進む。
- ・ 農業のまちは変わらず、医大のご飯は全て矢巾町産で賄われている。
- ・ 産直が一つになり大規模化し、町外へ進出。
- ・ 交通手段が変化し、山へもすぐ移動できる。
- ・ ゴミ問題が解決しクリーンな街になる。
- ・ 野菜の栽培や加工の工場ができ、雇用増加。
- ・ 往診が増え自宅での看取りが80%になる。
- ・ 町民が医大で色々な知識を得られるようになる。
- ・ 自治会が色々な意味で強くなる。

◎2060年に向けて行うべきこと

- ・ 近代化に乗っからない。
- ・ 休耕地対策をしっかりとる。
- ・ 地域の特色を活かす。
- ・ 農地の保全を優先したまちづくり。
- ・ 特産品や特徴のあるまちづくり。
- ・ 開発を進める地区と昔ながらの風景を残す地区をはっきり区別したまちづくりを進める。
- ・ 人と人の繋がりを意識して残すよう努める。
- ・ 子どもたちが集まって遊べる場所づくり。
- ・ 煙山ダムを観光資源にする(カヌー、釣り等)
- ・ 煙山ダム周辺をハイキングコースにする。
- ・ 町の特産品開発、ブランド化を進める。
- ・ ボランティアに参加しやすい仕組みづくり。

**未来世代
独創的・
複雑で困難な
課題に挑戦**

例4) 庁内政策企画ワークショップ (2021)



【概要】

◆**目的** 新規政策分野（ワーケーション）について町の取り組みの方向性の原案を検討する

◆**期日** 2021年（令和3年）
7月30日（金）16:00～17:00

◆**会場** 矢巾町役場

◆**参加者** 5人

職員3名・住民サポーター2名

【テーマ】ワーケーションを推進すべきか？どのように取り組むか？

①現代：資源整理と仮説

- ・宿泊、温泉施設
- ・アウトドア、スポーツ施設
- ・歴史公園 など活用可？



②FD：2040年の矢巾町

- ・都市インフラは老朽化
- ・時間や場所に縛られない働き方
- ・在宅時間が長く、高い健康意識



③FD：20年前の町へ提言

- ・リゾートではなく日常的逗留地に
- ・町全体に働き方改革の普及を
- ・ワーケーションは活性化に有用



④現代：再検討→結論

- ・全体としては前向きに推進
- ・重点施設の選定
- ・担当部門の役割分担決め

例5) 職員・議員SDGs研修にFD活用 (2021)



【協力】岩手県立大学
NPO法人環境パートナーシップいわて

◆**事業名** 脱炭素地域づくりワークショップ
「フューチャー・デザイン×ポストコロナの
SDGs」

◆**目的**・SDGs（地球温暖化等）への
理解を深める／・新たな思考・発想法とし
てFDを体験

◆**期日** 2021年（令和3年）
12月13日（月）15:30～17:30

◆**会場** 矢巾町公民館

◆**参加者** 24人（職員14人、
町議会議員10人）

グループ討議で出た意見（抜粋）

【2050年の矢巾町は】

- ・移動はテレポート
- ・気候変動でハイビスカスが咲く
- ・コロナなど感染症問題は解決
- ・再資源化でゴミの概念が消滅
- ・人口が2万8千→5万人に
- ・雨量増で河川堤防が崩壊
- ・農業人口が3倍に増えた
- ・水が矢巾の特産品になった

【2021年の町民への提言】

- ・とにかくお金を貯めておく
- ・飲食店でたくさん人とのふれあいを
- ・リサイクルをもっと積極的に
- ・脱炭素に向けた取り組み推進を
- ・山を整備して治水と水の浄化を
- ・あまり開発しなくても良い
- ・失敗は成長、何でもチャレンジを
- ・虫以外も食べたい、農業を頑張れ

例6) 財政教育プログラムへのFD活用 (2021~)



【協力】財務省東北財務局盛岡財務事務所

【概要】 (第1回)

- ◆**目的** 未来を担う若年層に国や自治体の予算編成の仕方を知ってもらい、財政に関心を持ってもらう
- ◆**期日** 2021年(令和3年)10月16日(土) 10:00~12:30
- ◆**会場** 矢巾町公民館
- ◆**参加者** 大学生18人(岩手大・岩手県立大・岩手医大・産業技術短大)

【グループワーク】財務大臣になって予算を作ろう！



1 班：持続可能な未来

【歳入】たばこ税の増税

【歳出】年金支出の減

子育て支援、防衛費の増

3 班：人材育成と国内確保

【歳入】所得税・たばこ税の増税

【歳出】防衛費の減

教育・科学振興の増

2 班：子育てしやすい世の中

【歳入】酒税・たばこ税の増税

【歳出】科学振興の減

子育て支援、医療費の増

4 班：エネルギー対策・科学振興

【歳入】所得税の増税

【歳出】エネルギー対策の大幅増

医療・介護費の増

財政教育プログラム×FDの参加者の感想から

◆FD体験について

▽未来人になって考えてみることによって、様々なアイデアを思い浮かべやすかったのが良かった。

▽実際に仮想将来世代になりきることによって、現世代のときよりも会話が弾んだような気がした。

▽未来にいるつもりで考えることによって、より具体的に「将来のために」という視点で内訳を考えることができた。

▽最初にグループ内でアイデアを出した時は、暗い話題が多かったが、どうしたら活性化するかという明るい考え方に変化していった。

財政教育プログラム×FDの参加者の感想から

◆財政教育プログラム×FDを経験して

▽ただ「税金が高い」「未来が不安」と言うのではなく、自分達で未来を考えていく必要があると知った。

▽きちんと考えれば、絶望的な未来というだけではなかったことに気づけた。

▽FDは政策や予算を組んでいくために必要な考え方だと思いました。

▽未来人の目線をわすれないように生活したいと思いました。

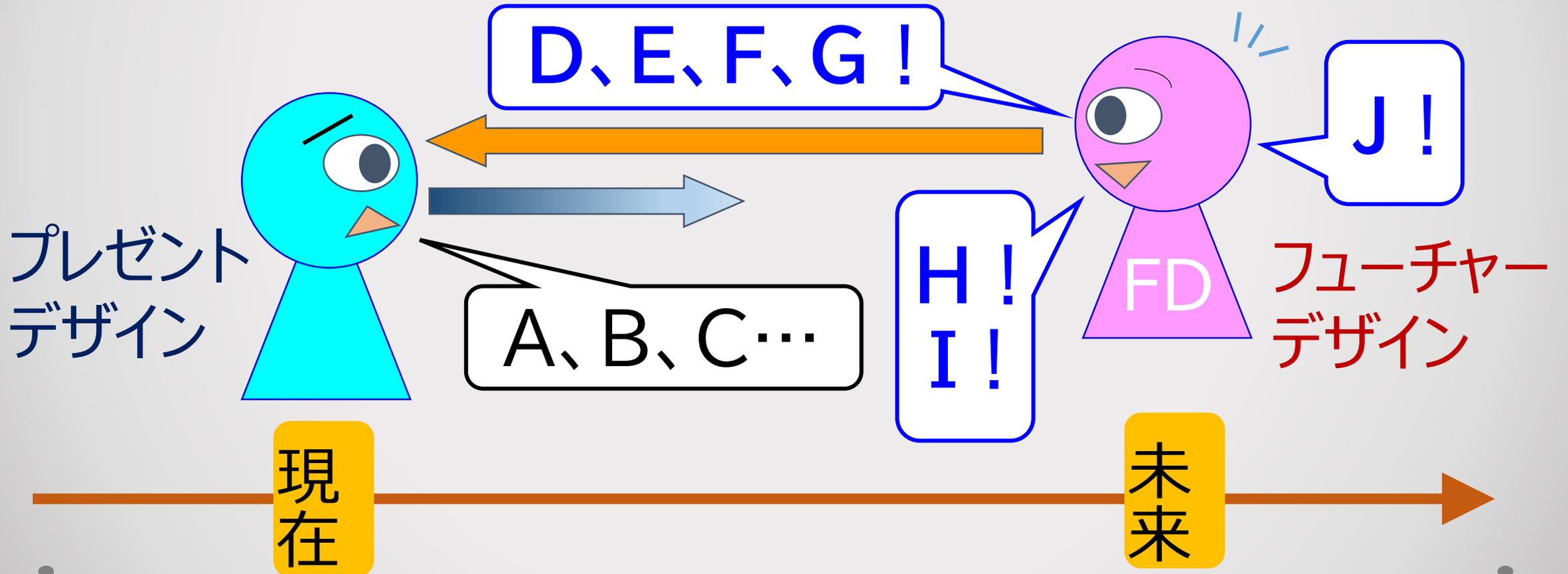
フューチャー・デザイン 活用のメリット

フューチャー・デザイン活用のメリット

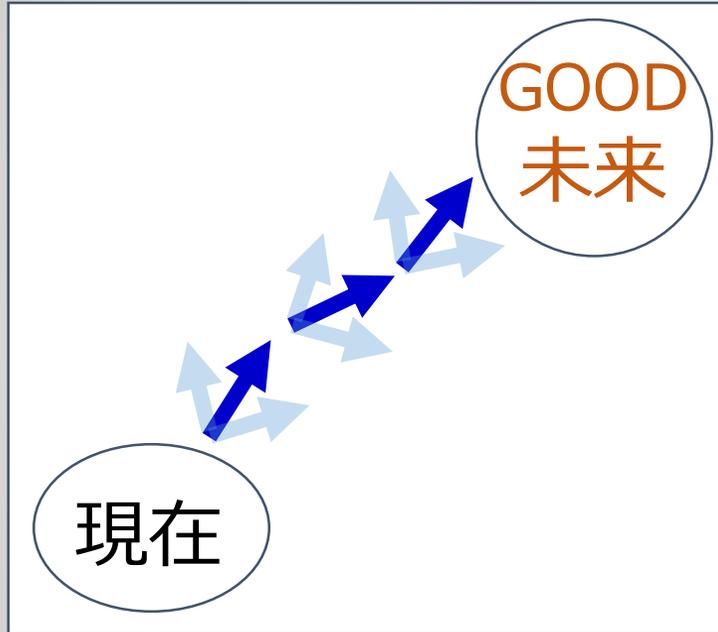
- ① アイデア創出の活性化
- ② 学びの手法（気づきの獲得・公共心の涵養）
- ③ バックキャストによる将来失敗回避の検討
- ④ 住民参加・協働意欲の喚起
- ⑤ 立場や利害関係を越えた合意形成・連携促進

フューチャー・デザイン活用のメリット

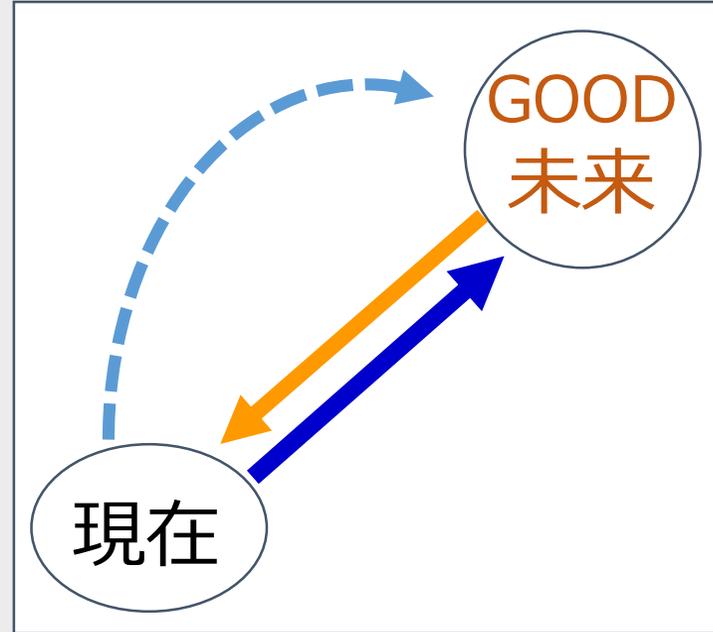
- ① アイデア創出の活性化 ② 学びの手法（気づき）



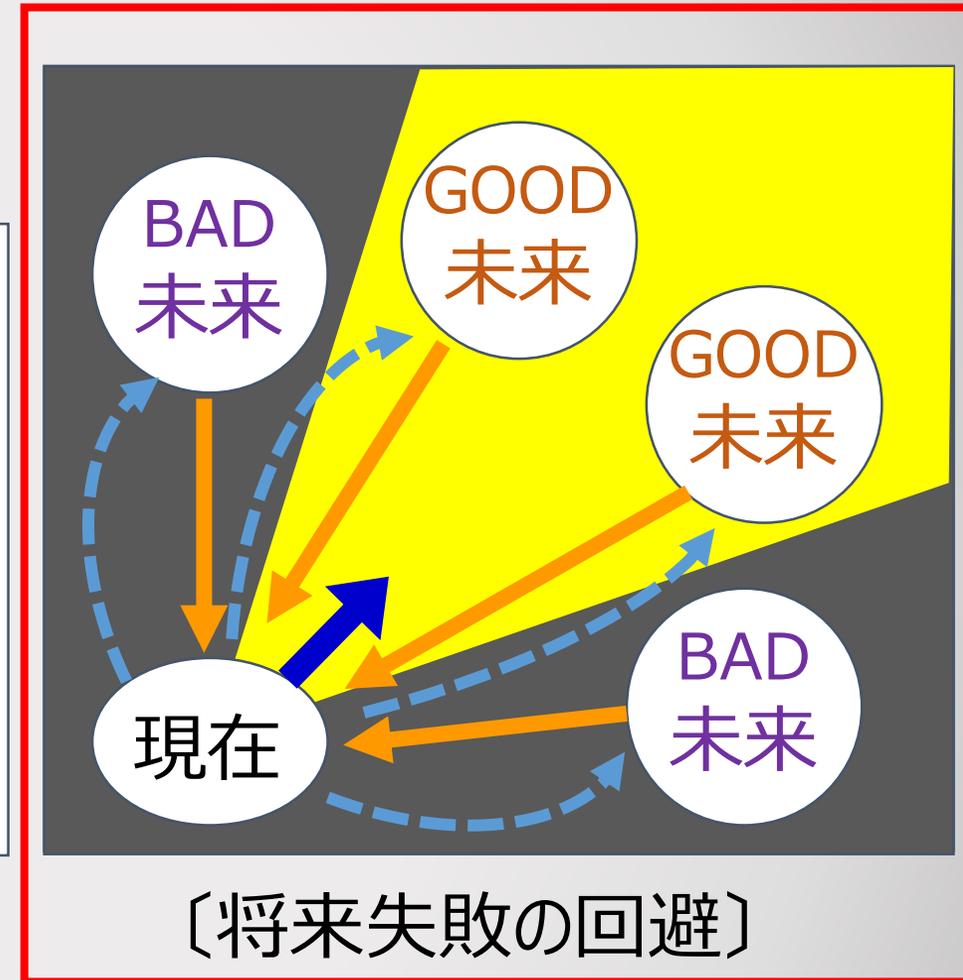
③バックキャストによる 将来失敗回避の検討



〔フォアキャスト〕



〔バックキャスト〕



〔将来失敗の回避〕

⇒ 特定の将来像に最短距離で向かうロードマップを描くことではなく、
次の1歩を、良い未来につながる方向へ踏み出すことを重視

④ 住民参加・協働意欲の喚起

⑤ 立場や利害関係を超えた合意形成・連携促進

矢巾町

「持続可能性に配慮した、
夢のある計画ができた」

参加者

「新鮮な経験ができた。
楽しく、やりがいがあった」

担当者

「行政と住民の相互理解・
信頼関係が深まった」

FDを
やって
よかった



また
やりたい

FDワークショップ参加者の変化

住民が変わる

継続的な
将来視点の獲得

まちの問題を
自分事と認識

参加者

「新鮮な経験ができた。
楽しく、やりがいがあった」

行政への
理解・共感

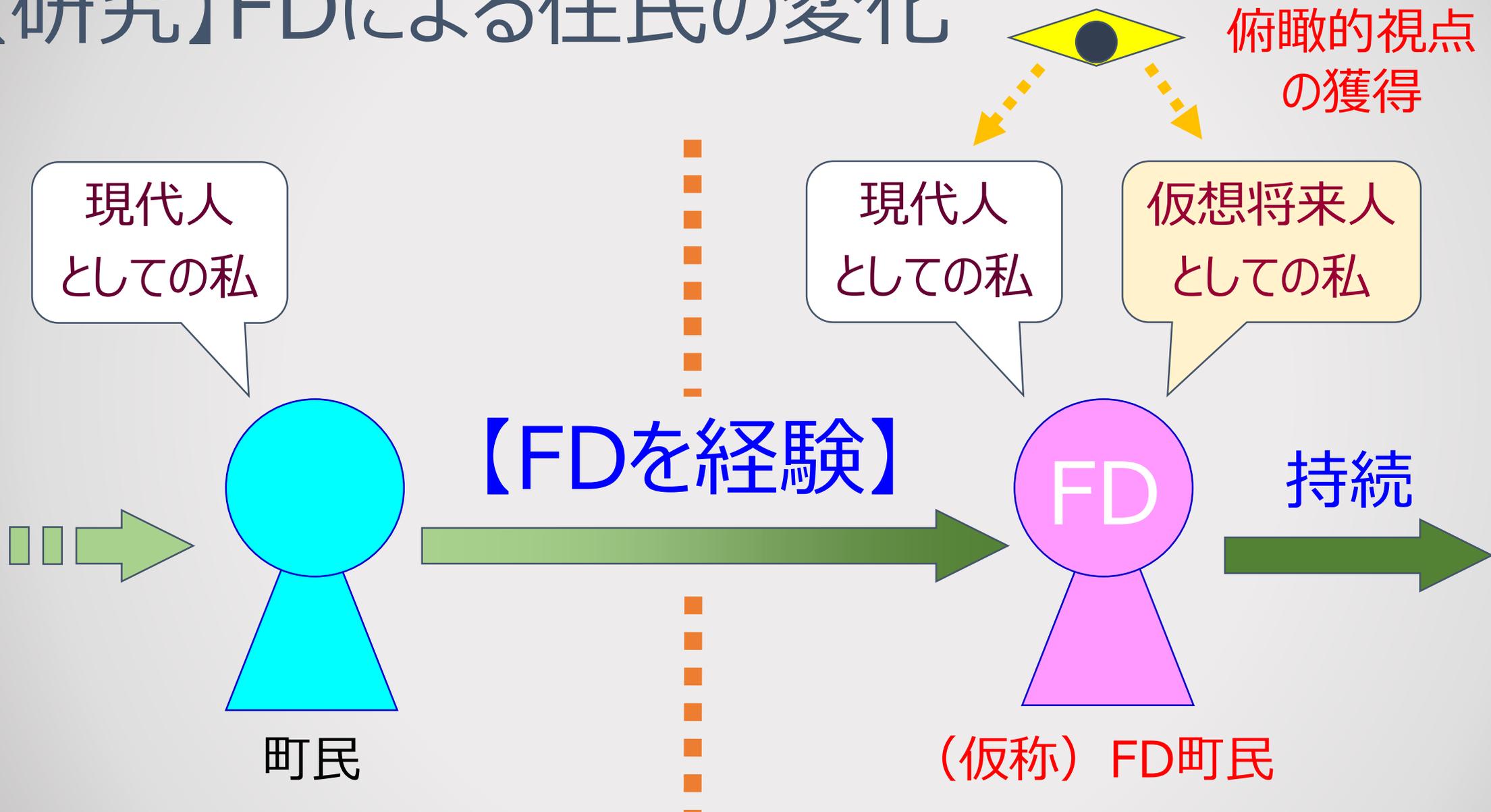
他者への
配慮

公共心の発現

(仮称)

「FD町民」= 住民協働の頼れるパートナーに

【研究】FDによる住民の変化



フューチャー・デザインタウン 矢巾町の展望

矢巾町×フューチャー・デザインのあゆみ

- 2012 (H24) 水道サポーターによるワークショップ
- 2013 (H25) 学術研究機関との共同実践研究スタート
- 2015 (H27) まち・ひと・しごと創生総合戦略策定にFD活用
- 2016 (H28) 大阪大学大学院とFD共同研究に関する協定
- 2017 (H29) 公共施設総合管理計画の検討にFD活用
- 2018 (H30) 高橋町長がフューチャー・デザインタウンを宣言
町財政を考える住民ワークショップにFD活用

矢巾町×フューチャー・デザインのあゆみ

- 2019 (R元) 企画財政課に未来戦略室を設置
第7次総合計画(後期)策定にFD活用
- 2021 (R3) 庁内政策企画ワークショップにFD活用
財政教育ワークショップにFD活用
職員・議員のSDGs研修にFD活用
- 2022 (R4) 第8次総合計画策定にFD活用
- 2023 (R5) 未来戦略室を未来戦略課に格上げ
第8次総合計画策定

「FDタウン」矢巾町の展望

総合計画にフューチャー・デザイン推進の方針が明記

→今後も、様々な計画策定や事業実施に活用

例) 分野別計画



計画策定会議

事業企画



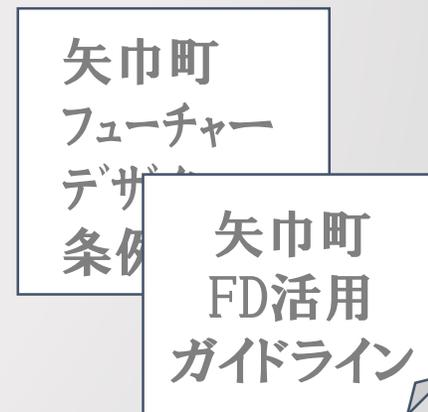
FD企画会議

教育への活用



財政教育プログラム

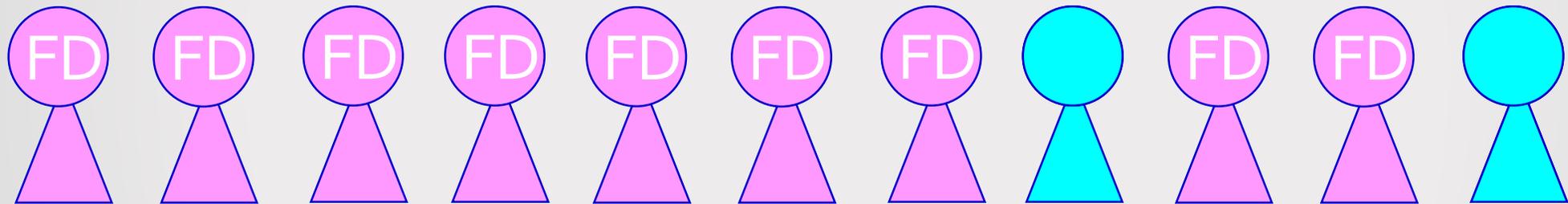
マネジメント etc.



(イメージ)

「FDタウン」矢巾町の展望

多くの人々がFDを経験することで、
住民主体の持続可能なまちづくりが日常的に展開



未来まで「やさしさ」や「思いやり」にあふれた、
真に住みよい・住み続けられるまちへの進化

※矢巾町が住みやすいと思う人の割合 (2023) … 86.7%



<参考>

国における
フューチャー・デザイン
推進の動き

財政制度等審議会

「令和5年度予算の編成等に関する建議」(2022.11.29)より

令和5年度予算の編成等に関する建議

令和4年11月29日
財政制度等審議会

『政策の立案に当たり、将来世代の視点に立って検討していくべき、という考え方がある。具体的に、将来世代の視点をどのように組み込んでいくかを研究する「フューチャーデザイン」という分野があり、その考え方を取り入れて行政現場で実際に活用することで、現に住民の行動変容を実現した地方公共団体もある。今後、持続可能な財政・社会保障の在り方を考えていく上でも、次の時代を担う若年世代を含めて、フューチャーデザインの考え方を活用した議論に社会各層を広く巻き込み、当事者としての関心を高めていくことが望ましく、こうした取組を具体化していく必要がある。』

【総務省の取り組み】

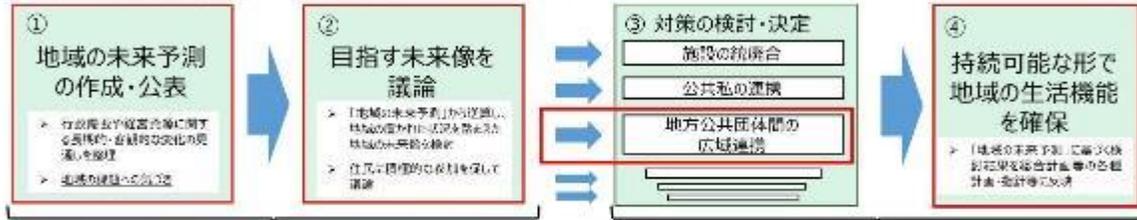
「地域の未来予測」の取り組みを推奨 広域連携に対して特別交付税措置（R4～）

「地域の未来予測」に基づく広域連携の推進のための特別交付税措置 ※令和4年度～

連携中枢都市圏や定住自立圏以外の地域においても広域連携を進めやすくするため、当該地域の中で広域連携を目指す複数の市町村が「地域の未来予測*」を共同で作成するための経費や、それに基づく施設の共同利用等に向けた取組に要する経費について、特別交付税措置を講じるもの。

*「地域の未来予測」：行政需要や経営資源に関する長期的・客観的な変化・課題の見通し。
詳細については、「地域の未来予測に関する検討ワーキンググループ報告書」（令和3年3月）参照。

＜「地域の未来予測」に基づく広域連携のフローイメージ＞



I 「地域の未来予測」の共同作成及び「目指す未来像」の議論に要する経費への特別交付税措置 (措置率0.5/対象経費の上限額(1市町村あたり)500万円)

(想定される主な経費の例)

- 「地域の未来予測」の共同作成に要する経費
 - ・ 地域課題の調査・分析経費
 - ・ 調査結果に基づく報告書の作成経費 等
- 「地域の未来予測」を踏まえた「目指す未来像」の議論に要する経費
 - ・ 「地域の未来予測」を活用したWSの開催経費
 - ・ 「地域の未来予測」の住民説明に要する経費 等

II 「地域の未来予測」に基づく広域連携の取組のうちソフト事業に要する経費への特別交付税措置 (措置率0.5/対象経費の上限額(1市町村あたり)1,000万円) ※「地域の未来予測」の公表から3年以内を実施するソフト事業に限る。

(想定される主な経費の例)

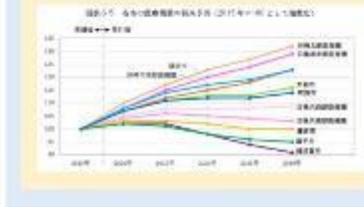
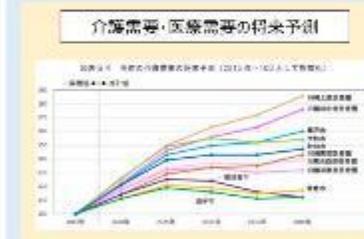
- 「地域の未来予測」に基づく広域連携の取組の検討に要する経費
 - ・ 連携事業の実施のために必要な調査分析経費
 - ・ 連携事業の検討会等の開催経費 等
- 広域連携の取組のうちソフト事業の実施に要する経費
 - ・ システム改修費
 - ・ 連携事業に関する住民説明に要する経費 等

「地域の未来予測」に基づく広域連携 取組事例の紹介

① 「地域の未来予測」の共同作成

(横浜市、川崎市、横須賀市、鎌倉市、藤沢市、逗子市、大和市及び町田市)

- ・ 地域課題の調査・分析
- ・ 行政サービスに対する意識等について、8市の住民を対象としたアンケート調査の実施
- ・ 調査結果に基づく報告書の作成 等



② 「地域の未来予測」を踏まえた「目指す未来像」の議論

(広陵町、大和高田市、香芝市、葛城市、上牧町、王寺町、河合町)

- ・ 「地域の未来予測」を活用したWS
- ・ 参加市町の首長向け説明会
- ・ 文化施設の共同利用等の検討

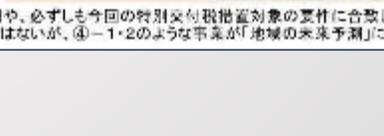


③ 「地域の未来予測」等*に基づく広域連携の取組のうちソフト事業の実施のための議論

(横手市、湯沢市、羽後町、東成瀬村)

- ・ 体育施設等の最適配置等に関する調査分析
- ・ 連携に関する研究会等の開催 等

*各市町村で策定済みの公共施設等総合管理計画等を踏まえ、体育施設等の最適配置等に合わせた最適配置等に向けた最適配置や解決案の検討を実施。



④-1 広域連携の取組のうちソフト事業(施設共同利用)

(大分都市広域圏(連携中枢都市圏))

- ・ 公共施設の相互利用に伴う共通施設案内・予約システムの共同整備
- ・ 住民向け周知 等

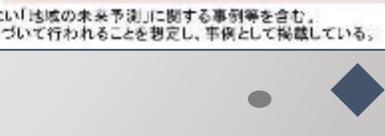


④-2 広域連携の取組のうちソフト事業(デジタル・防災)

(高松市、観音寺市、綾川町)

- ・ システム構築及び当該システムの共同利用 等

道路の通行実績情報・気象情報など様々な分野の情報を集約するデータ連携基盤を構築して共同利用。広域で発生する災害等に対し、リアルタイムで的確な状況把握が可能となり、避難誘導などの意思決定を支援。



※定住自立圏、連携中枢都市圏における広域連携の事例や、必ずしも今回の特別交付税措置対象の要件に合致しない「地域の未来予測」に関する事例等を含む。
※④-1・2は、「地域の未来予測」に基づいた取組事例ではないが、④-1・2のような事業が「地域の未来予測」に基づいて行われることを想定し、事例として掲載している。

財務省「はじめてのフューチャー・デザイン」ウェブサイト <https://www.futuredesign.go.jp/>

フューチャー・デザインとは 実践事例 実践方法 お知らせ 検索 [メルマガ登録](#)

はじめての フューチャー・デザイン

将来世代の視点で、持続可能な選択を。

STEP 01

基本を知る

まずはフューチャー・デザインの基本的な考え方を理解しておくから始めましょう。ここでは、フューチャー・デザインに求められる概念や期待される効果、また、どのように実践の、広がっていったらいいかを詳しく説明しています。是非参考にしてください。

[詳しくみる](#)

STEP 02

事例から学ぶ

フューチャー・デザインはどのように実践されているのでしょうか。ここでは、具体的な事例を挙げて、実践の進め方や課題を克服のポイント、実践の成果などについて学びます。自分たちもフューチャー・デザインを始めるイメージを膨らませましょう。

事例1: 留守番実用型の電話 [詳しくみる](#)

事例2: 宮崎県木崎町の電話 [詳しくみる](#)

STEP 03

実践する

フューチャー・デザインの実践のイメージを膨らませた後、次は実際にフューチャー・デザイン・ワークショップを行っていきましょう。ここでは、はじめての方がワークショップを実践する前に準備できる実践ガイドや、その他実践に役立つ情報などを紹介します。

[詳しくみる](#)